

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600087		
法人名	株式会社 ほほえみ		
事業所名	グループホームほほえみ		
所在地	苫小牧市北栄町4丁目13-3		
自己評価作成日	平成26年8月1日	評価結果市町村受理日	平成26年10月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0193600087-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaikokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0193600087-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年9月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るく、家庭的な雰囲気を大切に、入居者様が安心して過ごせるよう、スタッフが楽しく仕事ができるよう会話、笑顔のたえないホーム作りを目指しています。共に喜んだり、悲しんだりとホームがひとつの家族のような関係作りも大切にしています。また、医療機関や訪問看護との連携により日々の健康管理や看取り介護にも積極的に取り組んでいます。これからも、地域との繋がりを大切にしながら、入居者様やご家族様に安心・信頼していただける様なホームを目指していきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ほほえみ」は、近隣に遊歩道がある自然環境に恵まれた新興住宅地に立地している。建物は住宅地に溶け込み、屋内の共用空間は広々して明るく、トイレ、洗面所、浴室などは整頓され清潔感がある。開設後8年が経過する中で、代表者は管理者と連携し職員とのコミュニケーションを図りながら理念に沿って、利用者が地域の中で家庭的な暮らしが出来るように支えている。町内会や幼稚園の行事、ボランティア訪問の催し等、住民や子供との交流を継続して行っている。馴染みの人や場所とのつながりを大切にし美容室の利用、友人、元職場同僚の来訪などを継続して支援している。市主催の「認知症キッズサポーター養成」講座に協力し、小学校内で「寸劇」を演じて行政と一緒に認知症への理解を広めている。受診時には職員が同行して家族と情報を共有し、主治医指導の下で過去に10件の看取りを行っている。自己評価や前回外部評価での取り組みの項目を職員と話し合い、さらに課題を意識しながら熱心に取り組まれている。個々の希望に沿った入浴支援や排泄介助、食事の工夫を行い外出の機会も多い。利用者が楽しく過ごせるように、職員は家庭的な雰囲気を大切にしながら笑顔で対応している。

V. サービスの成果に関する項目(1階 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践につなげていく為。ほほえみ独自のケア理念を、作成している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた法人共通の「基本理念」と事業所独自の「ケア理念」を要所に掲示し、職員は意識して内容を確認している。対応で困った時には理念を話し合い、理解を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方々や近隣の幼稚園との交流を、図っている。	町内会の祭りで出店を回って食事をしたり、幼稚園の運動会を見学するなど、住民や子供との近所付き合いを継続して行っている。敬老会やクリスマス会にはボランティアの催しがあり、毎年ボランティア訪問による「そば打ち」も続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の支援や、理解に結びつく様ホーム通信や運営推進会議、外部評価の公表、などを通し、情報提供を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た意見等は、スタッフミーティングで話し合い、サービス向上につなげている。	2か月毎に会議を開き、運営状況、行事、外部評価の結果、研修報告などを行い、災害対策について情報を交換している。全家族に会議案内と議事録を送付しているが家族の意見は特になく、参加者も1~2名と少ない状況である。	テーマを設定した年間計画を作成するとともに、会議案内の際にテーマへの意見を収集し、家族との意見・情報交換の場にもなるような会議の運営を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や研修の場などを利用し、情報交換や意見交換をしながら、協力関係を築く取り組みをしている。	行政の各担当者とは運営推進会議や情報を交換する中で、常に相談できる関係を築いている。市主催の「認知症キッズサポーター養成」講座の依頼を受け、小学校内で5年生を対象に「寸劇」を演じて分かりやすく伝えている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解できる様、積極的に研修等に参加し、ミーティングの場などで意見交換や、話し合いを重ね取り組んでいる。	年に1回は外部研修で身体拘束禁止を学び、参加した職員は資料を基に勉強会で報告し内容を共有している。事例を取り上げて「禁止の対象となる具体的な行為」を確認している。日中は玄関に鍵をかけず、安全のために2階のユニット入口に鈴を付けて出入りを見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努める為、研修等に積極的に参加し、スタッフ間の情報を共有し、虐待が見過ごされることがない様に注意している。		

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度中にホーム内での研修会を予定し、スタッフ全員で学ぶ機会を設けていく。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点を解決できる様、十分な説明を行い、理解・納得を得ている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や、要望を聞く。また、面会簿に記入できるように取り組んでいる。ご家族様と入居者様のコミュニケーションを大事に考えている。	毎月「ご家族へのおたより」を個別に送っている。家族の来訪時や介護計画作成時に意向を聞いているが、意見などは少なく、相談を受ける中で思いを把握している。介護記録や連絡ノートで内容を共有している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフとの意見交換は随時行っている。年1回の個別懇談も行い、意見や提案を聞く機会を設けている。実行可能な意見、要望については速やかに反映させている。	参加できない職員の意見を事前に聞き、月1回のミーティングで活発に意見を交換している。勤務や研修の希望を取り入れ、ホーム長は管理者と連携して職員の意向を聞き取り、働きやすいように配慮している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し待遇改善、職場環境の整備に努めている。また、向上心がもてる様、資格習得の為の休暇や手当等の制度を設けている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加できるよう勤めている。内部での研修も行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主に研修会等に参加し、同業者との交流が出来るよう取り組んでいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の要望、不安等に耳を傾けスタッフみんなが把握できる様努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望、不安に耳を傾け情報交換や、情報の共有ができる、関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、ご家族様との面談やコミュニケーションを通し得た情報をアセスメントし、必要な支援を見極め対応している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは入居者様を人生の先輩として敬い、日々のコミュニケーションを通し感情の共有に努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様とご家族様の関係を大切にし、情報の交換や、共有をし共に支えていける関係づくりに努めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前より続けていた、マッサージを受けたり、馴染みの店に買い物に行くなど、馴染みの関係が途切れないよう支援を行っている。	ある利用者の元職場の同僚が来訪する際にパンの差し入れがあり、他の利用者もお裾分けを受けることもある。美容室や買い物などは本人の希望に沿って家族や職員が同行し、馴染みの関係が続けられるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係が上手くいくよう、将棋やカラオケなど趣味のものを把握しながら支援に努めている。			

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了していても、今までの関係性を大切にしながら、相談等に応じることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にコミュニケーションを意識しながら、個々の意向の把握に努めている。また、スタッフ間の情報の共有にも努めている。	利用者の意向はモニタリング時や介護記録で把握している。アセスメントの見直し時に新しい情報を追加し1年毎に作り直している。今後は全員のフェースシートの見直しや作成を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や担当ケアマネージャーの情報を基に、スタッフ間でアセスメントし、入居前の状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックをかかさず、介護記録を通し、心身の状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族様の意見を基に、3ヶ月の期間での見直しや、月1回のモニタリングを行い、適切なケアが出来るよう介護計画を作成している。	毎月のモニタリング記録の経過を基に、3か月毎に介護計画の評価を行い、更新計画を作成している。計画書と介護記録用紙を個別のクリアファイルに入れて、意識して日々の記録が出来るように工夫している。計画書に家族の署名を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録を通し、申し送り等で情報を共有し、実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の状況に合わせた、さまざまなニーズに対応し、柔軟なサービスが出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	暮らしを楽しむことが出来るよう、買い物や食事等の外出支援や、近隣幼稚園との交流を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師による往診や必要に応じて外来受診を行っている。また、緊急時の連絡体制を整え、適切な医療を受けられるよう支援している。本人、ご家族様の希望する医療機関の受診の支援も行っている。	8割の方は協力医療機関による月2回の往診を受けている。かかりつけ医や専門科病院の受診は、ほぼ職員が同行し結果を家族に報告している。受診内容は個別に記録し情報を共有している。	

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と24時間連絡可能な体制になっており、週1回の定期訪問で情報交換をし、適切な受診や医療が受けられる様に支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院時には、安心して治療を受けられる様また、早期退院できる様、情報交換、相談等病院関係者との関係作りにも努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り介護についての説明を行い、医療機関や訪問看護ステーションと連携を取りながら、スタッフ全員で支援に取り組んでいる。	重度化に伴い継続的な医療行為がない場合は看取りが可能な事を伝え同意書を得ている。看取りを希望する場合は関係者で方針を確認し「看取り介護について」の同意書を交わしている。過去10件の看取りを行い、看取り後の振り返りも行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践力が身につくよう、救命救急の講習を受講し、スタッフ全員が救急マニュアルを把握できる様努めている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている		消防署立会いの下で、利用者と一緒に避難訓練を実施しているが、住民は参加していない。地震などの災害を想定した対応や災害時の備蓄品類の確保は今後の課題である。職員の救急救命訓練の受講は他事業所と合同で準備を進めている。	次回の避難訓練には地域住民の参加を得て実施されるよう期待したい。火災以外の地震などの対応を職員間で話し合い、安全面の確認とともに、災害備蓄品類の保管を期待したい。	
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりに合わせた、丁寧な声かけや対応を心がけている。	利用者の呼びかけは「さん」づけとし、利用者の誇りを傷つけないよう研修で学んでいる。個人ファイル等は事務所で安全に保管し、名前が見えないよう戸棚にカバーをかけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、コミュニケーションを大切にし、本人の思いや希望を表すことができる様努め、自己決定ができるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで、本人の希望に沿った日々が送れるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用し、身だしなみに気をつけている。衣服等は、その人らしいオシャレができる様本人が選んで。			

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みの味つけや献立の変更により、食事が楽しみになるよう配慮している。本人の負担にならないように、調理や片付けをスタッフと共に行っている。	食材提供会社の献立をもとに、利用者の希望に沿って月に4～5回の変更を加えている。調理や味付け、食器洗い、食器拭きなどを利用者が手伝っている。会話を楽しみながら職員も一緒に同じ食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分量を記録し必要に応じてキザミ食やトロミをつけるなどの支援を行っている。1日を通じ栄養や水分が確保できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後のうがいや義歯の洗浄等で口腔内が清潔に保てる様支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし支援を行っているが、個々の力や排泄パターンに合わせて紙/パンツの使用、夜間のポータブルトイレの使用などの支援もしている。	全員の排泄状況をチェックし、自立の方も本人から報告を受けて記録している。誘導時は直接的な表現を避け、羞恥心に配慮している。日中はトイレで排泄できるよう支援し、夜間は状況に応じてポータブルトイレを使用したりパッド交換を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品等食事の工夫で、便秘予防に取り組んでいる他、個々の排便パターンにより、必要に応じて、腹部マッサージや服薬等の対応をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間は決めておらず、本人の希望に合わせて入浴できるよう支援している。	毎日入浴可能で、主に午後の時間帯で、各利用者が週2～3回の入浴ができています。拒否がある方も、入浴剤を選んでもらって入浴を促すなどの工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や、身体状況に応じて、安心して眠れる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師より処方された薬を用法、用量等スタッフ全員で理解し、スタッフ管理のもと服薬支援を行っている。また、服薬後の変化等に注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの趣味や嗜好品で楽しむことができ、日々の生活に張り合いが持てるよう、一人ひとりに出来るだけ浴った支援を行っている。		

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時にはご家族様の協力を得ながら、本人の希望を聞き外出や散歩、買い物や外食、地域行事への参加等の支援をしている。	夏季は、天気を見ながら週2回程度、遊歩道や近隣の住宅街を散歩している。車いすの方も一緒に散歩している。買い物の同行やラーメン店での外食など希望に沿った個別の外出支援を行っている。冬場は大型ショッピングセンターに行き、店内を歩いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、買い物や外食等に同行し、お金を使うことの支援をしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの制限等がない限り、本人の希望通りに支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や絵、花などで季節の移り変わりを感じていただけのような、空間作りをしている。また、居心地よく過ごせるよう、清潔に注意し、季節によっては、扇風機や加湿器などの使用で温度、湿度に配慮している。	居間と食堂が一体的で十分な広さがあり、窓が多く明るい。事務所スペースから全体を見渡すことができる。また、居間や廊下の奥のソファで自由にくつろぐことができる。壁には行事での写真や装飾が飾られ、家庭的である。全体の風通りが良くなるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士で将棋や花札を楽しんだり、時にはスタッフも一緒に楽しんだりしている。また、個々に新聞やテレビを観るなど思い思いに過ごせる様、家具の配置などにも配慮している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族様と相談しながら、馴染みの物を配置するなど居心地の良い居室になるよう工夫している。	居室の入口には利用者の好みの暖簾が掛けられている。居室内には、テレビや家具、ぬいぐるみ、趣味の品など自由に持ち込んでおり、壁にも写真やポスターなど自由に飾り付けして、本人らしい部屋作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に快適に過ごせるよう、また、自立した生活が送れるよう、できること・わかることを活かせるように支援している。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600087		
法人名	株式会社 ほほえみ		
事業所名	グループホームほほえみ		
所在地	苫小牧市北栄町4丁目13-3		
自己評価作成日	平成26年8月1日	評価結果市町村受理日	平成26年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1階 ユニット」に同じ
--------------

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0193600087-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0193600087-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年9月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2階 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員でケア理念を考え、ホール内に掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの方や近隣幼稚園との交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小学校に出向き、認知症サポーターの養成講座を開くなど、認知症についての理解や支援方法を広めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民やご家族様、地域包括職員の方々に出席していただき、情報交換を行っている。ここでの意見はサービス向上につながる様スタッフ間で、話し合っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や研修の場などで、情報交換や意見交換をしながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	積極的に研修に参加し、ミーティング等で意見交換をし拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等に参加し、スタッフ間の情報交換や意見交換を密にし、虐待が見過ごされることがない様に努めている。		

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、後見人制度を利用している方がいるので、日々話し合い等を行い、支援している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点を解決できる様、十分な説明を行い、理解・納得を得ている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望を聞くようにしている。また、ご家族様が気軽に意見や要望を出しやすいように面会簿に記入できるように工夫している。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフとの意見交換は随時行っている。年1回の個別懇談も行い、意見や提案を聞く機会を設けている。実行可能な意見、要望については速やかに反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状態を把握し待遇改善、職場環境の整備に努めている。また、向上心がもてるよう資格習得の為の休暇や手当等の制度を設けている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加できるよう努めている。内部での研修も行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	主に研修会等に参加し、同業者との交流が出来るよう取り組んでいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、面談の機会を設け十分な話し合いの時間を作り、不安や要望に耳を傾けている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望、不安に耳を傾け情報交換や情報の共有がけきるよう、関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に短期間での介護計画書を作成し、必要としているサービスを見極め、その都度カンファレンス開くなどの対応をしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	困難なことのお手伝いをするということで、一緒に生活をしている意識を持ち、関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にとって、何が1番の支援なのかを常に考え、ご家族と情報交換をしながら、共に支えていく関係作りに努めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの医療機関や美容室などに行く支援を行っている。また、ご家族様の協力のもと町内会の集まりなどにも参加できる様支援に努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人ひとりの性格を把握し、協力して出来ることをお願いしたり、一緒に楽しめる空間作りに努めている。			

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したご家族様とも、今までの関係性を大切にしている。中には、入居の相談を受けそのまま、入居に繋がったケースもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを意識しながら、個々の希望や意向の把握に努めている。また、スタッフ間とご家族様と情報の共有をしながら検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や担当ケアマネージャの情報を基に、サービス利用の経過等の把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録等を利用し、個々の生活リズム、身体状況をよく観察し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族様の意見、要望を反映させ、月1回モニタリングを行っている。変更があれば、ご家族様に報告、相談をし、現状の即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、連絡ノートを活用しながら、スタッフ間の情報共有や介護計画の作成、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様のニーズに対応できる様、状況に合わせて随時話し合いの場を設けるなど、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや幼稚園との交流、バーベキューや買い物など暮らしを楽しめる様支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師による往診や必要に応じての外来受診を行っている。また、緊急時の連絡体制を整え、適切な医療を受けられる様支援している。本人、ご家族様の希望する医療機関への受診の支援も行っている。		

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と24時間連絡可能な体制になっている。週1回の定期訪問で情報交換をし、適切な受診や医療が受けられる様に支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院時には、安心して治療を受けられる様また、早期退院できるよう、情報交換、相談等病院関係者との関係作りに努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時時に看取り介護についての説明を行い、医療機関や訪問看護ステーションと連携を取りながら、スタッフ全員で支援に取り組んでいる。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践力が身につくよう、救命救急の講習を受講し、スタッフ全員が救急マニュアルを把握できる様努めている。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、昼・夜間の避難方法を確認している。			

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	周りの状況を確認しながら、それぞれに合わせた声かけの対応をしている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを通し、本人の思いや希望を表すことが出来るよう、自己決定ができるよう働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ一人ひとりのペースに合わせて、過ごせるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれや身だしなみは、本人の思うままに出来るよう支援している。			

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえ、食器の片付けなど入居者様の負担にならない様に一緒に行っている。また、入居者様の希望に応じて、メニュー変更や出前などで食事を楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、特に水分量が不足している時は、本人の好みの物を摂取できる様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きうがいを実施している。必要に応じて歯科医の口腔ケアを利用したり、研修会に参加したりと口腔内の清潔に取り組んでいる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本に支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事等に気をつけているが、個々の排便パターンに合わせて腹部マッサージを行ったり、乳製品の摂取なども行っている。必要に応じて、服薬等の対応もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間や曜日は決めていなく、本人の希望を優先し入浴を楽しんで頂いている。入浴を好まれない方には、こちらから、声かけを行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や、身体状況を見極めながら、安心して眠れるよう、支援している。無理に寝る様な声かけは行わない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師より処方された、薬の用法・用量等スタッフ全員で理解し、スタッフ管理の元服薬支援を行っている。服薬後の体調の変化等に注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	チラシ折り、お手伝い、編みものなど、それぞれが趣味嗜好品で楽しめる様支援している。		

グループホーム ほほえみ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を聞き、買い物や外食、散歩など出来る限り、外出できるよう支援している。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、外出時にお金を使う事の支援をしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様より制限されている場合を除き、電話・手紙の取次ぎは本人の個棒に沿った支援を行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事ごとに入居者様の写真やお花を飾るなど居心地の良く過ごせるよう工夫している。また、季節に合わせて、扇風機や加湿器を使用し、快適に過ごせる様にしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の至るところに椅子を置き、気軽に会話や休憩ができる様にしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人やご家族様と相談しながら、自宅で使用していた馴染みのある物を配置することで、居心地のいい居室作りをしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状況を見極め、自立した生活が送れるよう支援している。また、死角になる廊下に鏡を設置するなど、安全な生活が送れるよう工夫している。			

目標達成計画

事業所名 グループホーム ほほえみ

作成日：平成 26年 10月 10日

市町村受理日：平成 26年 10月 23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	テーマを設定した年間計画を作成するとともに、会議案内の際にテーマへの意見を収集し、家族との意見・情報交換の場にもなるような会議の運営を期待したい。	家族の負担にならない様な会議への参加や、意見等を収集できる様取り組んでいく。	会議の案内、テーマ設定等で会議への参加や意見の収集、情報交換に繋げていきたい。	即実施
2	35	次回の避難訓練には地域住民の参加を得て実施されるよう期待したい。火災以外の地震などの対応を職員間で話し合い、安全面の確認とともに災害備蓄品類の保管を期待したい。	避難訓練に地域住民の方にも参加していただけるよう取り組んでいく。災害時の備蓄品を用意する。	事前に避難訓練のお知らせをする。備蓄品の保管場所を含め準備する。	即実施
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。